

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																										
専門学校 日本自動車大学校		平成1年3月30日	矢部 明		〒123-1234 千葉県成田市桜田296-38 (電話) 0476-73-5507																										
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																										
学校法人 日栄学園		平成1年3月30日	理事長 矢部 明		〒123-1234 千葉県成田市桜田296-38 (電話) 0476-73-5507																										
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																										
工業	自動車産業専門課程	自動車整備科		平成19年文部科学省 告示第21号	-																										
学科の目的 教育基本法及び学校教育法に基づき、自動車整備及び産業について専門学校教育を行い、その高度な理論と実践的な応用を教授ならびに研究し、もって交通産業の健全な発展を期することを目的とする。																															
認定年月日 平成29年 2月 28日																															
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																									
2	2412時間	892時間	0時間	1520時間	0時間	0時間																									
生徒総定員																															
480人		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
404人		95人	51人	8人	59人																										
学期制度		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目別・実習科目の履修成績の認定するため 各科目別に評価を行う 優(100~90点) 良(89~70点) 可(69~60点) 不可(59点以下)																											
長期休み		卒業・進級 条件		学科目及び実習科目のそれぞれの出席率、通常試験及び 期末試験の成績をもって決定する。出席率は各学科・実習 時間の90%以上でなければならない。																											
学修支援等		課外活動		■課外活動の種類 モーターショー、オートサロン、軽ダート大会、体育祭、国内 研修旅行、献血など ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																											
就職等の 状況※2		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>173人</td> <td>170人</td> </tr> <tr> <td>2級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>173人</td> <td>164人</td> </tr> <tr> <td>ソーシャル検定中級</td> <td>③</td> <td>204人</td> <td>141人</td> </tr> <tr> <td>損害保険募集人一般試験</td> <td>③</td> <td>192人</td> <td>160人</td> </tr> <tr> <td>小型中古自動車査定士</td> <td>③</td> <td>185人</td> <td>158人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	2級ガソリン自動車整備士	②	173人	170人	2級ジーゼル自動車整備士	②	173人	164人	ソーシャル検定中級	③	204人	141人	損害保険募集人一般試験	③	192人	160人	小型中古自動車査定士	③	185人	158人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
2級ガソリン自動車整備士	②	173人	170人																												
2級ジーゼル自動車整備士	②	173人	164人																												
ソーシャル検定中級	③	204人	141人																												
損害保険募集人一般試験	③	192人	160人																												
小型中古自動車査定士	③	185人	158人																												
中途退学 の現状		中途退学 の理由		■中途退学者 15 名 (除籍9名は除く) ■中退率 3.78 % 平成29年4月1日時点において、在学者396名 (平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者381名 (平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 目的意識の欠如、金銭的理由、体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任制及びキャンパス・アドバイザーを設置し、学生の各種相談に対応している。また、必要に応じ家庭への連絡及び家庭訪問を実施 することにより、保護者との連絡も密に取っている他、学力面のサポートとして放課後に勉強会を実施している。																											
経済的支援 制度		学校独自の奨学金・授業料等減免制度:		(有)無 1年次成績優秀者に対し、2年次の授業料を減免する特待生制度を設置 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																											
第三者による 学校評価		民間の評価機関等から第三者評価:		(有)無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																											
当該学科の ホームページ URL		URL https://www.nats.ac.jp																													
(留意事項) 1. 公表年月日(※1) 最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください 2. 就職等の状況(※2) 「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。 (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。 ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。 ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。 ※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。 (2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について ①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。 ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。 (3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進 3. 主な学修成果(※3) 認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。																															

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

日進月歩に技術が進歩する自動車産業界において、その技術的進歩に追従する、或いは先導的な指導を学生達に行うことは、実践教育を行う専門課程の責務であり、本校の当課程においては企業と連携し、教育カリキュラムの編成及び授業内容の改善などの意見を交換し、フィードバックを加える事により、常に企業ニーズに沿った授業内容の構築を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

企業や業界団体等と連携した教育課程編成委員会を設置し、委員会からの意見、提言等を活用または参考にし、学校長並びに各課の担当教員らで構成されるカリキュラム編成委員会により教育課程の編成を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
矢部 明	日本自動車大学校 学校長	2018年4月1日～2020年3月31日	
林 英伸	日本自動車大学校 学校長代理	2018年4月1日～2020年3月31日	
宮本 賢次	株式会社千葉マツダ 管理本部総務グループ	2018年4月1日～2020年3月31日	③
三平 真司	有限会社三平商会 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	③
矢城 勝彦	千葉県自動車車体整備組合 副理事長	2018年4月1日～2020年3月31日	①
岩立 一郎	株式会社岩立モータース羽鳥 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	③
高橋 正裕	JICA技術顧問	2018年4月1日～2020年3月31日	②
早川 靖洋	日本自動車大学校 教育部 教頭	2018年4月1日～2020年3月31日	
矢部 光範	日本自動車大学校 NEMO推進事業部 部	2018年4月1日～2020年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催 3月中旬 8月上旬

(開催日時)

第1回 平成30年3月16日 13:00～14:00

第2回 平成30年8月10日 13:00～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会からの意見、提言を元に最新電子制御技術搭載のガソリンエンジン車両を用い故障診断技術の向上を図った。また、ディーゼルエンジン搭載車両を用い、クリーンディーゼルエンジンの制御技術の修得、排気ガスの浄化方法の修得、現車確認などの内容を取り入れた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

販売直後の車両なども取り扱う機会が多い一般企業との連携を行い、実習、実技、演習などを行う事により、先進技術の一早い修得や今後導入される可能性がある技術などについても知見を得させ、より一層即戦力たる人材育成に取り組む事を基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

連携した企業と事前に実習内容などを協議し、授業を行う。また授業終了後に企業の担当講師と連携し学生の修得状況を調査すると共に、学修成果の評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ガソリン自動車実習	電子制御装置の概要習得及びスキャンツール活用による故障診断の概要修得	株式会社千葉マツダ
ジーゼル自動車実習	ジーゼルエンジンの作動、燃料装置、電子制御装置等の構造及び作動を理解する。	いすゞ自動車首都圏株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 教員の専攻分野に対する実務的、技術的な研鑽は、実践教育を担う上で欠かせない要素である。よって提携先企業または外部団体などを通じ常に最新の技術に触れ、教員の技術力向上を図る研修を計画的に実施する。一方、技術面のみならずそれらを伝える教育技法の習得も教員としては必須であり、更に近年の青少年の気質や行動様式を理解した上ででの指導力向上も求められる。よってこれらの研修の機会も併せて構築し、教員の資質の向上に努める事を基本方針とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

提携先企業による新型環境ディーゼル・エンジンの技術講習会に参加させて頂き教職員を派遣、同内容を他の職員にもフィードバック講習も行った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

提携先大学との連携により「カウンセリングの基礎と手法」と題した教職員を対象とした講座を開催し、受講した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

提携先企業及び各自動車メーカー主催の最新技術に関する技術研修会。また、外部団体主催の技術研修会に教員を派遣する。その後他の教員にフィードバックを行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等

千葉県専修学校各種学校協会主催の新人教員研修会、中堅教員研修会に教職員を派遣する。その後他の教員へのフィードバックを行う。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

企業や卒業生、地域住民等が参画した学校関係者評価委員会を設置し、学校評価ガイドラインに沿って行う自己評価をベースに、教育活動を始め学校運営に関する取り組みや改善方法を評価検証し、教育活動全般の質的向上を図る事を基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念、育成人材像の明確化と周知、業界のニーズや将来構想への取
(2) 学校運営	目的、運営方針、コンプライアンスに則った事業計画の策定と実行
(3) 教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成と実行、適正な人員配置と成績評価
(4) 学修成果	資格取得率、就職率、退学率等の評価
(5) 学生支援	就職や進路、経済環境や健康管理を行う組織体系
(6) 教育環境	施設・設備の保守点検並びに更新状況や防災に関する体制について
(7) 学生の受入れ募集	定員の状況と入試体系の明確化、学納金額の適性について
(8) 財務	財政基盤や予算、収支計画、監査体制の適性について
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守や自己評価の実施等
(10) 社会貢献・地域貢献	施設を活用した地域貢献や人材を活用した講座などの貢献について
(11) 国際交流	留学生の受入体制や学習成果の国内外への貢献について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会開催後、その意見を元に後援会企業等と連携し、最新技術を修得する機会を設けるなど実践的な教育内容の構築に努めた。また、地域社会との連携を深めより学校運営を強固な物とするため地域への奉仕活動にも力を入れた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
伊藤 浩明	千葉トヨペット株式会社 社員相談室 室長	2018年4月1日～2020年3月31日	関連業界
布留川 厚	横芝敬愛高等学校 校長	2018年4月1日～2020年3月31日	高等学校
竹林 克夫	千葉県関税会連合会 会長	2018年4月1日～2020年3月31日	地域住民
西谷 賢一	有限会社西谷自動車整備工場 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	保護者
成瀬 健吾	自動車整備科 3期卒業生	2018年4月1日～2020年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL: <https://www.nats.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と連携し、教育活動及び学校運営の一層の充実と質的向上を図るため、これらの状況や情報を恒常的に提供、公開していく事を基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページによる校訓、教育方針(到達目標)等の公表
(2) 各学科等の教育	各学科の授業科目、概要、時間数などのホームページ、パンフレットに
(3) 教職員	教職員の人数等をHPにて公表
(4) キャリア教育・実践的職業教育	取得可能資格をホームページに記載
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事や課外授業の取り組み等を、ホームページに記載
(6) 学生の生活支援	ホームページ、募集要項による奨学金の公表及び学生寮などの斡旋
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ、募集要項による納付金及び奨学金制度の明確な記載と
(8) 学校の財務	ホームページによる財務諸表の公表
(9) 学校評価	ホームページによる自己点検評価に基づく学校関係者評価の公表
(10) 国際連携の状況	JICAとの連携による途上国民の技術教育や協力隊員の養成支援
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.nats.ac.jp>

授業科目等の概要

(自動車産業専門課程自動車整備科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎自動車工学	自動車の各装置の概要、機械要素、熱力学など自動車に係わる基礎を広く範囲に学ぶ入門編	1前	24				○		○		
○			自動車材料・燃料・油脂	自動車に使用される材料・燃料・油脂類の特性を学ぶ	1前	20				○		○		
○			自動車整備・測定機器	整備作業機器、測定機器の構造取扱を学ぶ	1前	20				○		○		
○			ガソリン・エンジン1	ガソリンエンジンの種類、構造、付属装置の特性、点検整備方法を学ぶ。	1前	84				○		○		
○			自動車シャシ1	動力伝達、懸架、舵取り、制動、走行の各装置ごとの種類・構造・特性、点検整備方法を学ぶ	1前	84				○		○		
○			自動車製図	製図の基礎知識、読図、作図	1前	20				○		○		
○			工作・機械実習	手仕上げ工作、機械工作	1前	44				○	○	○		
○			測定実習	基本測定作業	1前	44				○	○	○		
○			ガソリン自動車実習1	ガソリンエンジン（四輪、二輪）分解・構造確認、シャシ（サスペンション、ブレーキ）の分解・構造確認及び点検整備法、電子制御装置概要確認、故障診断基礎	1前	156				○	○	○		○
○			自動車シャシ実習	動力伝達（クラッチ、ドライブシャフト、ディファレンシャル等）の分解・構造確認及び点検方法	1前	104				○	○	○		
○			一般教養	社会人として必要な一般常識	1・2通	40				○		○	○	

○		危険物取扱実務	可燃性危険物の性質及び正しい取扱方法	1 前	2 0		○			○		○		
○		有機溶剤取扱実務	有機溶剤の正しい取扱方法	1 前	1 6		○			○				外部
○		ビジネス能力	仕事の基本とビジネスマナーの習得	1 前	4 0		○			○		○		
○		自動車電気電子	自動車電子部品の構造・理論	1 後	4 0		○			○		○		
○		自動車電装品 1	自動車に使用される電気装置（バッテリー、オルタネータ、スタータ、点火装置など）の構造・特性、点検整備方法について学ぶ	1 後	6 0		○			○		○		
○		ジーゼルエンジン 1	ジーゼルエンジンの種類、構造、付属装置の特性、点検整備方法を学ぶ。	1 後	6 0		○			○		○		
○		自動車力学・ 数学 1	自動車の性能、特性にかかわる法則計算	1 後	3 0		○			○		○		
○		自動車関係法規	自動車にかかわる法律を理解する	1 後	2 6		○			○		○		
○		自動車検査機器	自動車検査作業に用いられる検査機器の種類や構造を学ぶ	1 後	2 0		○			○		○		
○		ジーゼル自動車 実習 1	ジーゼルエンジン搭載車両（小型）のエンジン、シャシのオーバーホール作業、電子制御装置の概要確認	1 後	1 1 6					○	○	○		○
○		点検検査故障 探求実習 1	法定点検（12ヶ月）、検査作業の実施	1 後	2 1 2					○	○	○		
○		ガソリンエンジン 2	ガソリンエンジンの構造、電子制御装置の構造、制御方法、故障探求方法を学ぶ	2 前	4 6		○			○		○		
○		自動車電装品 2	自動車に使用される電気電子装置の構造・機能、車内ネットワークの構造機能、外部診断器の特性について学ぶ	2 前	4 0		○			○		○		
○		ジーゼルエンジン 2	ジーゼルエンジンの各装置の構造・特性、電子制御式高圧燃料噴射システムの構造・特性を学ぶ	2 前	4 0		○			○		○		

○	二輪自動車	二輪自動車の構造、整備、故障探求	2 前	4 0	○	○	○												
○	自動車と環境 問題	地球環境問題から自動車の公害対策を学ぶ	2 前	2 0	○	○	○												
○	自動車検査	自動車検査作業の一連の流れや書類作成方法を学ぶ	2 前	2 6	○	○	○												
○	損害保険実務	損害保険の役割及び自動車事故における責任と賠償の役割について学ぶ	2 前	2 0	○	○	○												
○	ガソリン自動車 実習2	電子制御システムの研究、オートマチックトランスミッション、二輪車エンジン・シャシのオーバーホール作業	2 前	2 1 6			○	○											
○	電装品実習	HVの高圧回路取扱い及び点検整備方法を学ぶ	2 前	8 0			○	○											
○	専攻専科実習	ガソリンエンジンの性能向上、板金塗装、ウィンドウリペア、ボディ塗膜研磨などから選択でその手法を学ぶ	2 前	8 8			○	○											
○	自動車シャシ 2	オートマチックトランスミッション、CVT、各電子制御装置（サスペンション、ブレーキ、ステアリング装置）などの構造・特性を学ぶ	2 後	4 6	○		○												
○	自動車力学・ 数学2	自動車の性能、特性にかかわる法則計算	2 後	1 0	○		○												
○	点検検査故障 探求実習2	法定点検（24ヶ月）、検査作業の実施	2 後	##			○	○											
○	工場現場実習	各整備工場での実務を学ぶ	2 後	40			○	△	○									○	△
○	ジーゼル自動車 実習2	ジーゼルエンジン搭載車（大型）の取扱い、電制御燃料噴射システムの構造確認	2 後	##			○	○											
合計			37 科目		2412 単位時間(単位)														

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全科目必修科目であり、学科科目、実習科目の出席率、通常試験、期末試験の成績をもって決定する。出席率は各学科・実習時間の90%以上であり、成績評価「可」以上で履修を認定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	23週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。